

学校概要

創立 48 周年	学校長 尾上 伸一	副校長 伊藤 巖	学期 2 学期制	児童・生徒数 601 人
学級数 一般級: 19 個別支援級: 5		主な関係校: 飯島中学校・千秀小学校(飯島中学校ブロック)		

学校教育目標

生きるよろこび 学ぶ楽しさ のびのび 飯島っ子

知 自ら課題を見つけ、追究し続ける子 徳 一人ひとりがかけがえのない存在であることを認め、共に学び合える子 体 命を大切に、健やかな心と体をつくる子 公・開 学校や地域の一員であることを自覚し、すすんで行動する子

学校の特色

創立50周年を2年後に控え、学校と保護者と地域とのつながりを大切に積み重ねてきている。温かな地域の人たちに見守られ、子どもたちは素直で明るく、のびのびと生活ができています。学区は全て飯島中学校区に含まれており、例年9割以上の卒業生が飯島中学校に入学している。中学校との結びつきが大変に強く、千秀小学校と併せてブロック内の交流が日常化している。幼保小連携の推進地区として、学区内幼稚園・保育園との交流や情報共有も日常化されており、飯島地区での幼児期から義務教育段階での子どもの一貫した育ちをつなぐことができています。現在、学校での子どもの様子は落ち着いており、この状態を持続可能にしたい。課題としては、複雑な環境の家庭もあり、生活面での支援が求められる児童も多数在籍している。児童相談所・区福祉保健センター・栄警察署・特別教育総合センター・南部療育センター等との機関連携も日々のこととなっており、SSWを学校に導入する必要がある。学習の基礎基本の定着、学力向上、読書や挨拶などの習慣づけに重点を置いた組織的な取組も求められる。また、地域行事が多いことが、子どもの豊かな地域での生活を保障している一方で、教職員やPTA役員の負担が大きい点も課題として上げられる。多忙解消、子どもに向き合う時間の確保を念頭に置いた取組が求められる。

学校経営中期取組目標

～多忙感、業務多忙化の解消 チームワークで明るく元気な職場づくり～

次の3つの学校としての中期取組目標を実現していく中で、学校職員一人ひとりが子どもに向き合う達成感のある学校経営を推進する。

- 特別支援教育 一人ひとりが授業で大切にされ、一人ひとりのニーズに応える指導形態をもつ学校
- 教育課程 地域とつながる「ひまわりカリキュラム」の学びで子どもが生き生きと表現する学校
- 地域連携 地域と共に、地域の伝統文化を大切にした50周年記念事業で新たな歴史を刻む学校

小中一貫教育の取組

飯島中 ブロック : 飯島中学校・千秀小学校・飯島小学校

9年間で育てる子ども像

- 学校や地域・社会の一員としての役割を自覚し、共に生きようとする子
- 自ら課題を見つけ、追求し、解決しようとする子
- 一人ひとりが認め合い、共に学び合う子

自校の具体的取組

○地域と連携してのあいさつ運動に日常的に取り組みます。○教職員の人權感覚を磨くために合同教職員研修会を開き、特別支援教育を充実させます。○合同授業研究会を開催し、教職員が授業改善することを通して、子どもたちの学力向上を図ります。また、9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進します。○生徒交流会を通して、子どもたちが安心し、期待感をもって中学校に進学できるようにします。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	しっかりと学習習慣をもとに基礎基本の力を身に付け、自分の気持ちや考えを表現できる子を育てる	○ユニバーサルデザイン、アクティブラーニングを意識した授業づくり(理解を深めるための研修を行う) ○司書と連携した図書館教育、読書活動の推進(授業での図書の活用、読書月間の活発化)
豊かな心	学校や地域の様々な交流を通して、体験的な活動を積み重ね、自分の思いののびのびと表現できる子	○学級の実態把握のため、YP研修を行う。 ○表現を豊かにするため、今月の歌を決め、音楽朝会を行う。 ○地域の方に関わっていただきながら、体験を通じた学びを積み重ねる。 ○なかよし活動を継続しながら発展させる。○児童会テーマを中心とした児童会活動を行う。
健やかな体	○食育の充実に向けた取組の継続 ○体力向上に向けた取組の継続的発展 ○命を大切に、健康について考える教科横断的な取組の推進	○食育推進計画を基本に教科と関連させ、家庭と連携しながら行う。 ○休み時間、Eタイムでの外遊びの習慣づけ 日常的に体を動かす習慣づけを図る。 ○低学年でプライベートゾーン指導の実施。○各学年で命に関わる教科を洗い出し、体系的に積み重ねていける基盤を作る。
特別支援教育	1人ひとりの子どもが、生活や学習に見通しをもてる。各自が毎日、目的意識を持ち、登校する子どもを育てる。	○一人ひとりの発達をしっかりと把握する。 ○生活面に関しては飯島スタンダードなど共通の指導を行う。 ○学習面に対しては、個に対する具体的支援のステップを考え支援する。 ○コミュニケーション能力を高めるためにも、特別支援教室の充実を図る。
教育課程・学習指導	○基礎・基本の定着に向け、学んだことが生きる力につながるように、読解力を高めていく。	○力を定着させるために、スキル学習を積む。 ・印刷できるワークシート集を購入し、日々の学習の中で活用していく。 ・家庭学習においても、活用していく。 ○地域交流室と連携して、地域カリキュラムの編成・運営・改善を図る。
地域連携	○体系的な指導計画作りをさらに進める。 ○地域とつながる体験的な学びを通して、探求的に学ぶ子どもを育てる。	○地域交流室の中核に学校運営協議会を設置し、地域連携の要とする。 ○協力していただける地域人材の発掘。 ○ひまわりカリキュラムでの地域の方との関わりを深め、学びを充実させる。
人材育成・組織運営	○子どもの理解のための児童指導体制を確立する。○わかる授業づくりに向けた研究体制を確立する。○子どもが豊かに安心して生活できる地域連携を確立する。	○メンターチームの研修の充実を図り、人材育成に努める。 ○教職員が、子どもや保護者の対応で苦慮しないように、チ組織で対応する体制づくりを確立していく。